

徳川、武田の攻防語る

葵区「みらい学会」が講演会

徳川時代の歴史的意 武田信玄生誕500年 義を研究、発信する「徳川講演会」(静岡商工会議 川みらい学会)は2日、(所共催)を静岡市民文



三方原合戦の解説をする本多氏
|| 静岡市葵区の市民文化会館

化会館で開いた。「徳川、武田両氏の攻防」をテーマに、本多隆成

静岡大名菅教授と平山 優山梨県立中央高教諭 が講演した。

本多氏は三方原の合戦について、信玄が信州から遠江へ南下したとする通説に対し、「信玄本隊は信濃からではなく、東海道を通り、

駿河から遠江へと西進して来た」と自身の説を紹介した。家康は信長との同盟関係があり、一戦も交えず武田軍をやり過ごすことはできなかったと解説した。

平山氏は2016年放送の大河ドラマ「真田丸」の時代考証を担当した。家康と勝頼の間で展開された攻防と、武田氏が滅亡へと至る過程を紹介した。(社会部・小西龍也)